

渡良瀬遊水地における昆虫調査の結果について

目 次

◆渡良瀬遊水地の国指定レッドデータ昆虫..... 1

◆国のレッドデータ昆虫で渡良瀬遊水池から記録のあるもの(59種)..... 1

◆地域の名前がついた虫..... 1

◆最近渡良瀬遊水地から発表された虫（未発表含む）..... 2

◆湿地再生地の昆虫..... 2

◆ピットホールトラップによる結果..... 3

渡良瀬遊水地の昆虫

(モニタリング委員会資料)

◆渡良瀬遊水地の国指定レッドデータ昆虫

環境省より第4次レッドリストが2012年8月28日に公表された。昆虫は前回より302種多い(336種追加され32種がランク外)868種がリストアップされた。ワタラセハンミョウモドキのようにランクが上がったものも多い。このリストより渡良瀬遊水地からは59種の昆虫が把握できた。これは前回の基準では25種であったので倍以上となる。また約50種は栃木県指定のレッドデータ昆虫であるが、このなかでムモンチャイロテントウやスゲノハラジロヒメゾウムシのように種類によっては遊水地で普通に見られるものも多い。

渡良瀬遊水地の自然環境はヨシ焼きにより維持されてきたことが大きい。しかし2年間連続で実施されず昆虫や植物に甚大な影響が出ている。

さらに地球温暖化の影響でこれまでに見られなかった虫が見られるようになった。ワタラセハンミョウモドキで代表されるように渡良瀬遊水地の昆虫のなかには北方地域に分布の中心がある種がいて、今後生息状況がどのように変化してゆくのか心配される。温暖化の影響かどうかはわからないが絶滅危惧IB類のワタラセハンミョウモドキ、チビアオゴミムシ、同II類のアカガネオサムシは明らかに減少している。

◆国のレッドデータ昆虫で渡良瀬遊水池から記録のあるもの(59種)

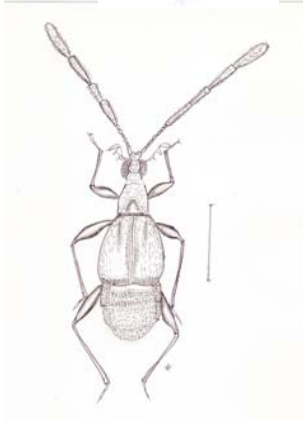
既に絶滅したものも含まれる。コウベツブゲンゴロウ、ルイスツブゲンゴロウは記録があるが、確認が必要と思われるので除外。把握したもののみで漏れがあるかもしれない。

絶滅危惧IA類(CR) 2種	ベッコウトンボ、アオヘリアオゴミムシ、
絶滅危惧IB類(EN) 10種	オオモノサシトンボ、コバネアオイトトンボ、オオキトンボ、コハンミョウモドキ、ワタラセハンミョウモドキ、チビアオゴミムシ、オオイチモンジシマゲンゴロウ、ヒメミズスマシ、セスジガムシ、シルビアシジミ
絶滅危惧II類(VU) 14種	タガメ、ホソハンミョウ、アカガネオサムシ、チョウセンゴモクムシ、ツヤキベリアオゴミムシ、トダセスジゲンゴロウ、ミズスマシ、クシヒゲアリヅカムシ、オビヒメコメツキモドキ、ガマヨトウ、キスジウスキヨトウ、ヌマベウスキヨトウ、オオチャバネヨトウ、イチモンジヒメヨトウ
準絶滅危惧(NT) 21種	ベニイトトンボ、ババアメンボ、エサキアメンボ、シロヘリツチカメムシ、セアカオサムシ、イグチケブカゴミムシ、クマガイクロアオゴミムシ、エチゴトックリゴミムシ、オオトックリゴミムシ、ケシゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、オオミズスマシ、ヤマトモンシデムシ、オオルリハムシ、コウノハバチ、ウマノオバチ、ハイイロボクトウ、ギンイチモンジセセリ、スゲドクガ、シロホソバ、カギモンハナオイアツバ
情報不足(DD) 12種	ヤマトセンブリ、クビナガヨツボシゴミムシ、タナカツヤハネゴミムシ、オオサカアオゴミムシ、クビナガキベリアオゴミムシ、ハガクビナガゴミムシ、アリスアトキリゴミムシ、コガムシ、ヌレチハネカクシ、アオスジベッコウ、モンズズメバチ、カエルキンバエ

レッドデータ昆虫で次の種以外はネットや図鑑で調べられるので図は省略する。

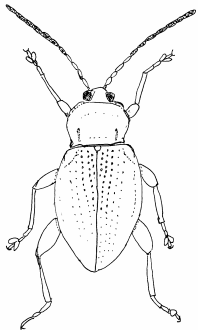
上段左よりヌレチハネカクシの一種（ホームページ;Tree of Life web projectより）、カエルキンバエ 下段左よりクシヒゲアリヅカムシ、アオスジベッコウ（ホームページ;[荒川昆虫記](#)より）

＊アオスジベッコウの記録は中村(2008), インセクト, 59(1):79. による



◆地域の名前がついた虫

- ワタラセハンミョウモドキ
- ワタラセサビイロモンキハネカクシ
- ワタラセツブゲンゴロウ(右の図)
- ワタラセトックリゴミムシ(未記載種で仮称)
- ワタラセミズギワアリモドキ
- ワタラセカクムネトビハムシ(渡良瀬遊水地ではなく上流の渡良瀬川に因む)(左の図)
- イタクラキノメイガ



◆最近渡良瀬遊水地から発表された虫（未発表含む）



Platamartus jakowlewi Reitter, 1892
Hisamatsu により 2011 年に日本から初めて記録された。渡良瀬遊水地
ほか2ヶ所から得られている。これまではシベリア東部から知られてい
た。春先スゲの花に来ているが、生息地は極めて局地的。
写真は Hisamatsu(2011)より。左：雄，右：雌

ニセコクロヒラタガムシ（未発表）

群馬県館林市の湿地より採集された標本をもとに新種記載された種。これまでに全国数箇所（渡良瀬遊水地で 4
箇所目）からの記録があるのみ。2012 年渡良瀬遊水地から発見された。
写真は北野忠東海大准教授のホームページより



新しい知見（未発表）

トダセスジゲンゴロウ（絶滅危惧Ⅱ類の渡良瀬遊水地における生息状況



左：トダセスジゲンゴロウ 右：生息場所

トダセスジゲンゴロウ（絶滅危惧Ⅱ類）は東京都・茨城県・埼玉県・栃木県・群馬県・愛知県・徳島県での生息
が確認されているが、生息地は極めて局地的である。生息地は河川敷の下流などの半安定帯の一時的な水溜りで植
被が必要である（田島ら, 2010, 2011）。渡良瀬遊水地には一時的な水溜りの出来る場所が多く、調べるとトダセスジ
ゲンゴロウが多い。渡良瀬遊水地を特徴づけると言ってもいいようなこれまでこうした環境を調べたことがなかつ
たため、現在調査中である。準絶滅危惧のオオトックリゴミムシもこうした環境を好むことがわかってきた。

◆湿地再生地の昆虫

掘削池の縁にいた虫	
2012 年 5 月 13 日	2012 年 10 月 25 日
エリザハンミョウ幼虫 非常に多い ドウイロミズギワゴミムシ 1ex. チビヒョウタンゴミムシの一種 1ex. アジアイトトンボ 1ex.	エリザハンミョウ幼虫 非常に多い ヨツボシコミズギワゴミムシ 多い クロヒメカワバハネカクシ 多い コクロメダカハネカクシ チビドロムシ キタカミナリハムシ 多い

掘削池にいた虫	
2012 年 5 月 16 日	2012 年 9 月 25 日・28 日
アキアカネ幼虫 多い	アキアカネ成虫と幼虫 ノシメトンボ シオカラトンボ アジアイトトンボ
ヒメアメンボ 多い	ケシカタビロアメンボ 微小種 多い ヒメアメンボ マツモムシ幼虫 2exs. チビミズムシ
	チビゲンゴロウ ヒメゲンゴロウ 5～10 頭 ハイイロゲンゴロウ 数頭
	ヒメガムシ 1ex, コガムシ 1ex. ゴマフガムシ トゲバゴマフガムシ 非常に多い 最優先種 スジヒラタガムシ



ケシカタビロアメンボ、トゲバゴマフガムシ ゴマフガムシ チビミズムシ

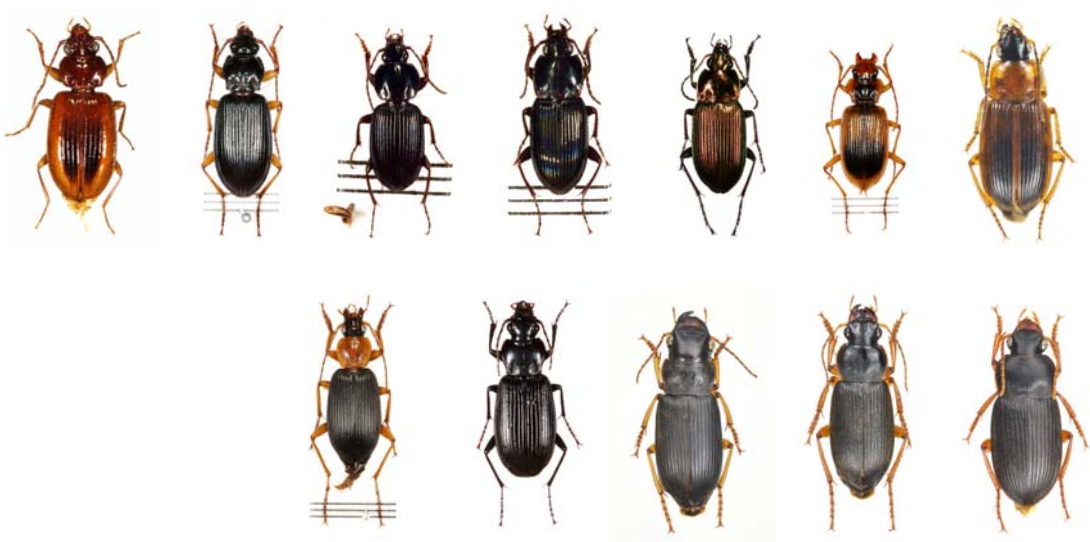
◆ピットホールトラップによる結果

2012 年 5 月 13 日～16 日 9 月 25 日～28 日				
種 名	調査区	対照区	調査区	対照区
カワチマルクビゴミムシ	1			
ヒラタキイロチビゴミムシ	1			
コヒメヒョウタンゴミムシ	1			
キアシヌレチゴミムシ	1			
オオナガゴミムシ			1	2
アシミゾナガゴミムシ	1		1	
コガシラナガゴミムシ	1			
キンナガゴミムシ	2			1
セアカヒラタゴミムシ		1	6	5
オオゴモクムシ			2	
ケゴモクムシ				4
ヒメケゴモクムシ			3 2	6
ケウスゴモクムシ			1	
ムネアカマメゴモクムシ				
オオヒラタシデムシ		4		2

＊トラップの個数 対照区：5 個 調査区：15 個 動物による被害多し

左より 上段 ヒラタキイロチビゴミムシ、キアシヌレチゴミムシ、アシミゾナガゴミムシ、コガシラナガゴミムシ、キンナガゴミムシ、カワチマルクビゴミムシ、ムネアカマメゴモクムシ

左より 下段 セアカヒラタゴミムシ、オオナガゴミムシ、オオゴモクムシ、」ケゴモクムシ、ケウスゴモクムシ ＊滋賀県立琵琶湖博物館「里山のゴミムシ」より



アキアカネ幼虫 ピットホールトラップ設置場所 エリザハンミョウ 成虫



エリザハンミョウ 幼虫巢穴 エリザハンミョウ 幼虫

(2012年10月 大川秀雄)